

コウノトリ自然放鳥

～ 豊岡に歓声再び ～

昨秋の放鳥から1年。コウノトリの野生復帰に向けた2年目の放鳥が9月23日、市内大磯町の円山川河川敷で行われ、3羽のコウノトリが豊岡の大空へ新たに放たれました。

放鳥会場では、約2,500人の観衆が見守る中、公募で選ばれた15人が放鳥箱をテープカットし扉が開くと、コウノトリが力強く飛び立ち、観衆から大きな歓声が沸き上がりました。

また、今回は放鳥1周年を記念して、コウノトリと共生する地域づくりフォーラムやこのとり音楽祭なども併せて行われ、翌24日には、市内河谷の放鳥拠点から4羽が放鳥され、豊岡の空を舞うコウノトリは16羽となりました。

人里で野生復帰を目指す世界でも類を見ない取組みは、着実に次の目標へ向かって踏み出しています。



▲3羽のコウノトリは次々に力強く羽ばたいて空へと舞い上がった

テープカットをした人にインタビュー

自社経営の酒店で但馬産の米を扱っている縁でコウノトリファンクラブ会員となった原田さんは豊岡市に訪れ



原田 正彦さん
(福岡県福岡市・46歳)

原田さんは「今回、コウノトリが舞い上がる姿を見ることができて、とてもうれいす。環境を大切にするコウノトリ育む農法を九州にも伝えたいと思っっています」。

放鳥の瞬間、思わず息をのみました

コウノトリファンクラブ会員で最年少の小



小崎 なる
(豊岡市三宅・3歳)

「この子が大きくなつたころには、コウノトリが空を舞う光景がごく普通のものになっていればいいですね」。

大きいコウノトリが飛んでいったよ

崎成留くんは、母親の志保さんと一緒に放鳥のお手伝い。成留くんは抜け落ちたコウノトリの羽を手にして大喜びでした。志保さんは、「この子が大きくなつたころには、コウノトリが空を舞う光景がごく普通のものになってい



▲放鳥を祝って放鳥式のオープニングで合唱する新田小6年の児童たち



▲風にあおられながらも、羽いっぱい風を受けて舞い上がるコウノトリ



▲このとり音楽祭で歌声を披露するコウノトリファンクラブ会長の柳生 博さん



▲放鳥の瞬間を一目見ようと集まった観衆



▲フォーラムでは、県立コウノトリの郷公園の増井園長が放鳥から1年間の経過報告を行った

2年目の放鳥に込める思い



県立コウノトリの郷公園
研究部長
池田 啓さん

持つ両方の姿はこの場所でないと思ってもらえないと思いい、円山川の河川敷を放鳥の場所に決定しました。

一方、河谷放鳥拠点では冬期湛水やビデオテープ田に

今回のコウノトリの放鳥は円山川の河川敷と河谷放鳥拠点で行いましたが、これらの場所が選ばれたには理由があります。

円山川の河川敷は、豊岡市の花火大会などで市民の皆さんに親しまれている場所であるということです。また同時に、平成16年の台風23号で決壊した場所のすぐそばということです。

コウノトリは「美しい自然」のシンボルですが、台風による決壊は「恐ろしい自然」をイメージしてしまいます。自然の

現在、円山川の河川敷で放鳥したコウノトリは、円山川を拠点に活動しており、河谷放鳥拠点で放鳥したコウノトリもコウノトリの郷公園に戻らず、河谷地区や百合地区にいます。

今回の放鳥で、少しずつ、地域の中のコウノトリになり始めていることを実感しています。